



世界を旅するような気持ちでボードゲームやカードゲームを楽しむ「世界を旅するサロン」がタイ料理店「サラム」(八日市町)で開催されました。多様な人や文化、想いがつながるまちづくりをテーマに、NPO法人まちづくりにネット東近江が開催し、タイ料理レストランを会場

8/4 いろいろなゲームで盛り上がる世界を旅するサロン

フォトニュース  
**Photo NEWS**  
ひがしおうみ東西南北  
季節の話題をお知らせ!



にさまざまなゲームを楽しみました。野洲市から参加した山崎裕司さんは、「知らない人同士でも一緒にゲームをしていると、楽しくて時間があつという間に過ぎました。ゲームを通じて打ち解けられて楽しかったです」と笑顔で話してくれました。

開催まであと2年  
連載スタート!



湖国の感動 未来へつなぐ  
**わたSHIGA輝く国スポ・障スポ**  
第79回国民スポーツ大会・第24回全国障害者スポーツ大会 **2025**

国民スポーツ大会(国スポ)は、毎年都道府県持ち回りで開催する国内最大のスポーツの祭典。令和7年に滋賀県で開催される「第79回国民スポーツ大会」は、昭和56年のびわこ国体以来44年ぶりの開催となります。また、「第24回全国障害者スポーツ大会(障スポ)」も開催されます。

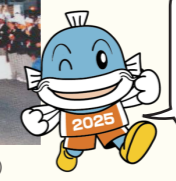
東近江市実行委員会では、大会の成功に向けて、準備を進めています。国スポ・障スポに関する情報は、特設サイトをチェックしてください。

湖国の感動 未来へつなぐ  
**わたSHIGA輝く国スポ・障スポ**  
▲大会スローガンと大会ロゴ



▲びわこ国体の歓迎装飾と自転車競技の様子(市役所本館前)

本大会は、市内各地で全国トップレベルの技が見られることに加え、訪れる人たちに本市の魅力をってもらう機会でもあります。みんなで大会が成功するよう盛り上げましょう!



国スポボランティア&企業協賛  
**大募集**

申込み方法など詳しくは、電話、ファクス、メールで問い合わせてください。



関わったSHIGA輝く国スポ・障スポ  
東近江市実行委員会  
(国スポ・障スポ推進課内)  
☎050-5801-5675 FAX0748-24-5571  
メール: kokusupo-syosupo@city.higashiomi.lg.jp



国スポ・障スポ特設サイト

7月8月

東近江市の魅力満載!  
**森里川湖3DAYキャンプ**

子どもたちに本市の豊かな自然と、歴史や文化のつながりを体感してもらう「森里川湖3DAYキャンプ」を開催しました。

鈴鹿の森から琵琶湖までの各所を3日間で巡るこのイベントは、7月から8月にかけて計3回行われ、市内の小学1年生から4年生まで59人が本市のさまざまな魅力を体験しました。参加した石井惇翔さん(能登川南小3年)は、「琵琶湖で遊んだり、アイスを作ったりいろいろな体験をしました。川で思いっきり泳いだのも楽しかったです。来年も参加したいです」と笑顔で3



日間の思い出を満足そうに話してくれました。



8/18 おりがみで  
はらへこあおむし作ったよ!

世界中で人気のエリック・カール作の絵本「はらへこあおむし」に出てくるあおむしを折り紙で作るイベントが蒲生図書館で開催されました。

てたりするのが難しかったけど、楽しかった。完成してうれいす」と、自分で折ったあおむしを誇らしげに見せてくれました。

伸び縮みするカラフルなあおむしを作ろうと、子どもたちは真剣な表情。保護者や講師の先生に手伝ってもらい、それぞれ一生懸命折り紙を折って組み立てていました。姉妹で参加した河村知咲さんは、「折ったり組み立



ビワマスの産卵行動(愛知川)  
魚が泳ぎだすまで長い時間がながれます。鈴鹿

琵琶湖に生息するビワマスは、この湖だけにすむ固有種で、とてもおいしい魚です。湖を回遊しながら主にコアユを食べ、4年ほどで50センチメートル以上になります。秋になると、ビワマスが鈴鹿の森の小さな谷川で見られるようになります。愛知川を数十キロメートルもさかのぼってやって来たのです。静かにその様子を見ると、雄は顎が鋭く折れ曲がり、体側は黒紫色の模様をしています。雄の前にはお腹が少し膨れた雌がいて、体を横にしながらか川底を掘って産卵の準備をしています。しばらくすると雌の横に雄が並んで産卵が行われます。産卵後、雌が受精卵を砂礫で埋め戻し、翌春、稚魚が泳ぎだすまで長い時間がながれます。鈴鹿

鈴鹿の森から始まり、森里川湖を通じて人と自然がつながっていることを感じていただくコラムです。  
**ビワマスは鈴鹿の森をめざす**

の雪が消える3月頃、そと谷川をのぞいてみると、ビワマスの稚魚たちは群れながら、流下する昆虫に飛びつく姿があります。6月頃までに7センチメートル以上に育った幼魚は、雨で増水した愛知川を下って琵琶湖へ戻っていきます。この時、自分の生まれ育った谷川を、産卵に再びやってくるまで記憶するものと思われます。  
ビワマスは、鈴鹿の森で数十年にわたってこのような生活を毎年続けてきました。鈴鹿の森に育まれた清流があることを信じ琵琶湖から愛知川を上ってくるビワマスに、これからも永く応えられるように鈴鹿の森を大切にしたいものです。

執筆・藤岡康弘(滋賀県立琵琶湖博物館特別研究員)  
問 森の文化博物館整備課  
IP 050・5802・9951  
FAX 0748・24・1457